評価者	教育部長	佐々木 聡
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	学校教育	施策の方針	安全・安心で開かれた学校づくり
目標とすべきまちの姿	児童生徒が教職員や友人との信頼関係を築き、楽しく元気ある学校生活を送っています。家庭や地域社会が学校教育に求めるだけでなく、それぞれ本来の役割を担い児童生徒の育成を図っています。また、学校・家庭・地域が協力して、すべての児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりへの取組が進んでいます。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度 (2019年度)	21.1%	平成30年度 (2018年度)	20.3%	平成29年度 (2017年度)	19.2%
	平成28年度 (2016年度)	21.0%	平成27年度 (2015年度)	24.6%		

(2) 妥当性

令和元年度(2019年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.9%	1.8%	0.5%
ちょうどよい	1.6%	52.3%	1.1%
効果不十分	0.8%	2.6%	11.2%

仕
事
の
効
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.2%	1.8%	0.3%
ちょうどよい	0.5%	56.5%	2.0%
効果不十分	1.8%	1.3%	10.2%

仕
事
の
効
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.4%	1.9%	0.5%
ちょうどよい	1.8%	52.0%	2.8%
効果不十分	1.4%	2.5%	9.6%

仕
事
の
効
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	3.0%	0.5%
ちょうどよい	1.8%	52.2%	2.3%
効果不十分	1.4%	2.5%	9.6%

仕
事
の
効
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成27年度(2015年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.7%	1.1%	0.1%
ちょうどよい	2.0%	52.1%	1.9%
効果不十分	1.4%	2.3%	8.3%

仕
事
の
効
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	22.2%	48.6%	2.9%	26.2%
平成30年度(2018年度)	22.1%	50.9%	2.8%	24.1%
平成29年度(2017年度)	20.4%	52.9%	2.8%	23.9%
平成28年度(2016年度)	18.7%	53.8%	1.8%	25.8%
平成27年度(2015年度)	18.6%	49.6%	1.7%	30.0%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①教育行政の推進を図るため、教育の公平性、公正性を確保し、かつ透明性のある教育委員会を運営するとともに、事務局等効果的、効率的な運営を行う。(教育-01、02、21、22)
- ②楽しく活気があり、また安心して学校生活を送れるよう、引き続き不測の事故等への対応を図る。(教育-14、23)
- ③児童生徒の良好な教育環境を維持するため、引き続き学校や関係部局、家庭、地域と協力して児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりを進めていく。(教育-01、02、14)
- ④学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置を行うとともに、健康管理の支援に努めていく。また、「鎌倉市学校職場環境改善プラン」を着実に推進することによって、教職員の多忙化を解消し、業務負担軽減を図る。(教育-20)
- ⑤児童生徒の健康の保持・増進を図るため、関係機関とも連携し、成果の確保を図っていく。(教育-21)
- ⑥適切な学校教育の実施を図るため、関係課等との協力体制を構築しながら、きめ細やかな就学相談を行っていく。(教育-22)

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①目標とすべきまちの姿の実現に向け、適時適切な教育委員会会議の運営と業務の円滑な運営を行うための人材確保及び適切な配置を行いつつ、法令業務については、粛々と取り組んでいく。(教育-01、02、14、21、22)
- ②、③、⑤、⑥学校や関係部局、家庭、地域がそれぞれの役割を担い、協力することで、児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりへの取組を進めることができる。(教育-01、02、14、23)
- ④教職員の多忙化を解消し、業務負担軽減を図ることで、子どもたちと向き合う時間を確保することにより、児童生徒が教職員や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送ることができる。(教育-20)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
		令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元 年度 (2019 年度)	平成 30年度 (2018年 度)		事業内容	予算規模
教育-01	教育委員会運営事業	5,917	5,929	1.4	1.3	無	b	B
教育-02	事務局運営事業	87,541	97,225	3.7	3.3	無	b	B
教育-14	学校安全対策事業	37,205	38,645	0.1	0.1	無	b	B
教育-20	教職員運営事業	9,652	9,530	2.9	3.0	無	a	A
教育-21	学校保健事務	57,453	58,809	1.4	1.0	無	a	B
教育-22	就学事務	1,136	880	1.0	0.7	有	a	B
教育-23	学校保険事務	11,467	11,561	0.2	0.2	有	a	B

(4) 主な実施内容

- 【主な実施内容】**
- ①、③教育行政の推進を図るため、教育委員会の会議を開催した。(教育-01)
- ①、③学校施設管理・学校給食調理業務等に支障を来さぬよう、非常勤嘱託員や臨時的任用職員を配置した。(教育-02)
- ②小学校に学校警備員を配置し、児童等の安全確保を図るとともに、学校施設に係る機械警備を行った。(教育-14)
- ②学校管理下における児童生徒の負傷・疾病等に備え、各種保険金や掛金の支出をした。(教育-23)
- ④教職員の適正な人事配置を行うとともに、学校管理職としての資質の向上を図るため研修を行った。(教育-20)
- ④鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会を開催し、教職員の心身の健康管理及び職場環境改善について検討を行った。(教育-20)
- ⑤児童生徒の健康の保持・増進を図るため、各種検診や保健指導などを実施した。(教育-21)
- ⑥小中学校への就学決定等を行った。(教育-22)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・人員確保を図り、業務に支障を来さぬよう非常勤嘱託員等の配置を行うことができたため、効率性を適切と評価した。(教育-02)
- ・「学校職場環境改善プラン」に沿った計画の実施、勤怠管理システム等による教職員の時間外勤務の客観的把握の開始等、教職員が生き生きと働くことができる職場づくりに向けた取組を推進することができたことから、妥当性を適切と評価した。(教育-20)
- ・小学校への警備員配置は犯罪等に対する抑止効果の面で非常に有効な手段であり、保護者及び教職員から高い評価を得ていることから、有効性を適切と評価した。(教育-14)
- ・各種検診や保健指導、学校管理下における児童生徒の負傷や疾病等に備えた災害共済給付契約等、すべての児童生徒に機会のある取組であるため、公平性を適切と評価した。(教育-21、23)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-20	事業名	教職員運営事業					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	教職員のメンタルヘルスチェック回答率											
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
教職員自身が精神面の不調やストレスに気付くきっかけとなるため	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値	96.0	98.8	98.8	99.4	99.2	98.9					
	達成率	96.0%	98.8%	98.8%	99.4%	99.2%	98.9%					
整理番号	教育-20	事業名	教職員運営事業					単位	%	指標の傾向	⇩	備考
指標の内容	80時間を超える時間外勤務を行う教職員の割合(小学校)※通年の平均											
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
教職員自身が勤務時間の管理について意識を持つことにより、時間外勤務の削減につなげるため	目標値	-	-	-	-	-	10.0					
	実績値	-	-	-	-	-	0.2					
	達成率	-	-	-	-	-	5000.0%					
整理番号	教育-20	事業名	教職員運営事業					単位	%	指標の傾向	⇩	備考
指標の内容	80時間を超える時間外勤務を行う教職員の割合(中学校)※通年の平均校											
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
教職員自身が勤務時間の管理について意識を持つことにより、時間外勤務の削減につなげるため	目標値	-	-	-	-	-	60.0					
	実績値	-	-	-	-	-	24.3					
	達成率	-	-	-	-	-	246.9%					
整理番号	教育-21	事業名	学校保健事務					単位	校	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	鎌倉市立小学校での色覚検査の実施											
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
色覚検査は任意検査であるが、学校生活等に必要であるため平成28年度(2016年度)から試行を実施	目標値	-	-	-	2	4	8					
	実績値	-	-	-	2	4	8					
	達成率	-	-	-	100.0%	100.0%	100.0%					
											令和2年度(2020年度)小学校全16校での実施を目指す。	